

ワークショップを中心とした上代文学の総合学習

背景・目的

近年、日本文学科生にとっては、古典文学は必ずしも馴染み深いものではない。特に高校までの教科書において取り上げられることが比較的少ない上代文学の場合、その傾向は一層顕著である。本学においても、上代文学の担当教員の定年退職後、十分な教育が実践できているとは残念ながら言いがたい。

そこで、今年度は上代文学研究の権威である上野誠先生（奈良大学）をお招きし、御講演いただくとともに、装束着装のワークショップを行うことにした。昨年度実施した平安衣装の着装実演も概ね好評であった。古典文学を読み解く上で、当時の文化状況への理解はもっとも重要な基本的事項である。これをきっかけに学生の上代文学への関心が高まり、今後の研究・学習がより深まることを期待する。

実施内容

5月22日にワークショップを開催することになり、その事前学習として、1年生対象の日本古典文学史Aにおいては万葉集を代表とする上代文学についての概説を行った。また講師の上野誠先生の著書を購入し、学生が閲覧できるように配備した。



5月22日に日本文学科・日本文学会共催で「万葉びとになる一天平装束着衣実演一」を、大学講堂で開催した。

前半は、服飾研究家の山口千代子先生が様々な資料に基づいて復元した古代の人々の衣装を、モデルに選ばれた学生たちが実際に着用し、その当時のファッションを体験した。上代においては身分によって服装も大きく異なっており、7人のモデルはそれぞれの階層に応じた着衣で登場し、それぞれの衣装について山口先生から詳しい説明がなされた。

後半は、上野誠先生によって上代の人々の行為について解説が行われた。様々な古典文学作品を引用したり、また学生モデルに実際にそのような行動をとらせたりして、衣装がその役割をどのように担うのかなど、学生にわかりやすい説明であった。

ワークショップ後、上代文学への関心と教養を高めるために、日本古典文学史A、基礎講読Dの他、古典文学関係の講義で、ワークショップを踏まえた事後学習を行った。

結果及び考察

ワークショップということもあり、実際に近くで見ることができ、また一部の学生は体験もでき、学生には大変好評であった。文学作品を読むだけではわからないその当時の人々の生活が想像しやすくなったと思われる。



この企画で学んだことを効果的に活かすために、2014年度の古典文学演習IA・IIAでは、万葉集を用いた講義を行う予定である。